

平成25年度

昭和薬科大学附属高等学校・中学校

後援会会報

発行：平成25年 7 月 後援会事務局(本校内) TEL 098-870-1852

平成25年度 役員会開催

「昭和薬科大学附属高等学校・中学校後援会」は、附属高等学校の創立20周年を機に、1995年（平成7年）卒業生父母・高校同窓会・PTAで結成され、学校の教育事業を支援する活動を行っています。

後援会では、6月8日（土）午後7時から平成25年度の役員会を開催し、

- ①平成24年度会務報告及び決算 ②監査報告
- ③平成25年度役員 ④平成25年度事業計画及び予算

の4議案を全会一致で承認しました。(次頁資料参考)。

平成25年度の活動計画として

- ①奨学金貸与（経済的理由により就学困難な生徒に対し、奨学金を貸与する。年間2人 年額360,000円、3年間）
 - ②特別活動援助（県代表として県外に派遣される生徒に対し、援助を行う。）
 - ③講演会（生徒の学習意欲を喚起し、進学目標を達成させるためモチベーションを高める講演会を実施する。）
 - ④創立40周年記念事業寄付金（創立40周年記念事業を支援するため、今年度も50万円の募金を行う。）
- 以上4つが確認されました。

平成25年度役員については、下記の通りとなりました。



比嘉幹郎会長



—— 平成25年度 後援会役員()は所属 ——

- 会 長 比嘉 幹郎 (卒業生父母)
- 副会長 伊禮 正直 (卒業生父母) 新里 守人 (同窓会長) 眞榮田明美 (PTA会長)
- 理 事 知念 良和 (卒業生父母) 新垣 吉浩 (卒業生父母) 本成 悦子 (卒業生父母)
- 渡慶次 実 (卒業生父母) 小山 師子 (卒業生父母) 宮城 寛清 (卒業生父母)
- 喜納兼次郎 (卒業生父母) 高江洲和男 (卒業生父母) 新城 伸子 (卒業生父母)
- 当山 恵子 (PTA副会長) 渡久地若江 (PTA副会長) 花城 哲 (PTA副会長)
- 吉田 正 (同窓会) 又吉まゆみ (同窓会) 又吉 教彦 (同窓会)
- 新城 正志 (同窓会) 宮島 正 (卒業生父母) 玉木 英恒 (職員OB)
- 監 事 赤嶺 秀男 (卒業生父母) 知念 拡 (職員OB)
- 顧 問 宮里 毅 (3代校長) 比嘉 定俊 (4代校長) 安室 肇 (5代校長)
- 稲福 達也 (現校長)



- 事務局 事務局長 北川 隆 (同窓会) 事務局(次長) 根路銘 敦 (同窓会)
- 幹 事 神里 正弘 (教頭) 新垣 志信 (教頭)

平成24年度 会務報告及び決算報告

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

◎収 入

	科 目	予 算	決 算
1	入 会 金	1,200,000	1,300,000
2	寄 付 金	600,000	669,570
3	奨学金返還	54,000	54,000
4	雑 収 入	1,000	57,568
5	繰 越 金	14,730,507	14,730,507
	計	16,585,507	16,811,645

※ 入会金（1万円）は、高校卒業時に入会案内をして父母のご協力をお願いしています。

※ 寄付金は同窓会・PTAからで、PTAはバザーの収益があてられました。

(平成24年度の寄付金の決算内訳)

同窓会 300,000円 PTA 369,570円

※ 平成24年度は奨学生の継続者1名。新規2名。

※ 奨学事業基金は奨学事業の為に積立金です。

※ 特別活動援助として、平成24年度は県外の大会等に参加した生徒64名に派遣費（1人5,000円）を援助しました。

※ 特別活動援助金（内訳）

高校／剣道部・ヨット・科学部

将棋部・文芸部・陸上

デイベート部・吹奏楽部・テニス部

※ 講演会

講師：磯部洋昭 氏

(京都大学宇宙総合学研究所ユニット特定講師)

助手：羽田裕子大学院生

◎支 出

	科 目	予 算	決 算
1	運 営 費	233,000	164,131
2	事 業 費	15,530,000	1,091,211
	1 当年奨学事業	870,000	570,000
	2 奨学事業基金	13,740,000	0
	3 特別活動援助	520,000	320,000
	4 講 演 会	200,000	201,211
	5 渉 外 費	200,000	0
3	寄 付 金	500,000	500,000
4	予 備 費	322,507	3,990
	計	16,585,507	1,759,332

平成25年度 活動計画及び予算

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

◎収 入

	科 目	予 算
1	入 会 金	1,200,000
2	寄 付 金	600,000
3	奨学金返還	54,000
4	雑 収 入	1,000
5	繰 越 金	15,052,313
	計	16,907,313

◎支 出

	科 目	予 算
1	運 営 費	233,000
2	事 業 費	15,820,000
	1 当年奨学事業	1,440,000
	2 奨学事業基金	13,460,000
	3 特別活動援助	520,000
	4 講 演 会	200,000
	5 渉 外 費	200,000
3	寄 付 金	500,000
4	予 備 費	354,313
	計	16,907,313

※ 支出の当年奨学事業は、昨年度からの奨学生2名の継続と今年度の新規枠2名分が予算化されています。



▲特別活動援助金交付式

後援会活動報告

昨/年/度/の/活/動//////////

●生徒への特別活動支援金〔個人・団体〕

【高校部活動】

1. 陸 上 3 位 南九州大会派遣 1 名
2. ヨット 1 位 九州大会派遣 1 名
3. 将棋部 優勝 全国高校総合文化祭派遣 4 名
4. 文芸部 推薦 全国高校総合文化祭派遣 2 名
5. 吹奏楽 優秀な成績 全国高校総合文化祭派遣 34 名
6. 剣道部 男子(個人 3 位) 女子(個人 3 位・5 位)
九州大会派遣 3 名
7. ディベート部 4 位 全国高校ディベート選手権
派遣 6 名
8. 陸 上 2 位 九州大会派遣 1 名
9. テニス部 団体 3 位 全国選抜九州大会派遣 8 名
10. 将棋部 優秀な成績 全国高校文化連盟将棋新人
大会派遣 1 名
11. 科学部 優秀な成績 九州高校生理科研究発表
大会派遣 2 名
12. ヨット 優勝な成績 九州高校選抜ヨット選手権
派遣 1 名

●中・高生対象の講演会

講師：「磯 部 洋 昭 氏」

(京都大学宇宙総合研修ユニット特定講師)
(太陽物理学・宇宙プラズマ物理学)

中学演題 「人間が生まれたのは、月と変なやつらのおかげかも？」

高校演題 「夢に向って頑張ることはよいことか？」

磯部先生はご自身の研究内容の紹介から、太陽と宇宙の話、宇宙の始まりと終わりの話を幅広い知識と経験から分かりやすく中・高生に話をしていました。

助手 羽田裕子大学院生

中・高生「若い皆さんへ伝えたいこと」

中・高時代での「夢」を持つことの大切さや「人との出会いの大切さ」を生徒に伝えていました。

後援会奨学生募集

財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団（旧日本育英会）などが運営する公的な奨学金制度は、高校生を対象としていて、中学生への貸与は行われません。その点、後援会の奨学金制度は、中学生も対象としているのが特徴です。他の奨学資金との併用はできませんが、中学生の間は後援会の制度を利用し、高校生になったら返済期間が長い公的な奨学金制度へ切り替えることもできます。平成 24 年度までに 10 名の生徒が後援会の奨学金制度を利用しています。希望者は、学級担任を通して新垣教頭に相談して下さい。

後援会の沿革

1993年(平成5年)

高校同窓会の呼びかけで、卒業生父母とPTAの三者により「創立20周年記念会館建設期成会」（比嘉幹郎会長）を結成。

1995年(平成7年)

創立20周年記念会館が落成し（総工費約5千万円）学校へ寄贈する。目標を達成した「建設期成会」は、引き続き学校の教育目標達成に必要な支援を行う為に、「昭和薬科大学附属高等学校・中学校後援会」（比嘉幹郎会長）として再編・発足する。

2002年(平成14年)

奨学事業と生徒の特別活動援助事業を開始。また、高校創立30周年記念事業に向けて「創立30周年記念事業期成会」を結成し、資金造成に協力する。

(2004年資金造成目標を達成 30,139,005円)

○生徒の県外派遣へ計270,000円補助

2004年～2007年(平成16年～19年)

この年度に会則一部改正

(従来の「卒業生父母の会」を発展解消し、卒業生の父母は直接後援会へ入会することになった)

○奨学金 貸与

○生徒の県外派遣へ

2008年(平成20年)

○生徒の県外派遣へ計710,000円補助

○生徒対象講演会協賛

2009年(平成21年)

○生徒の県外派遣へ計420,000円補助

○生徒対象講演会

○40周年記念事業のための募金

2010年(平成22年)

○生徒の県外派遣等計360,000円補助

○40周年記念事業のための募金

2011年(平成23年)

○生徒の県外派遣等計295,000円補助

○生徒対象講演会

○40周年記念事業のための募金

2012年(平成24年)

○生徒の県外派遣等計320,000円補助

○生徒対象講演会

○40周年記念事業のための募金